れきはく通信 第４号

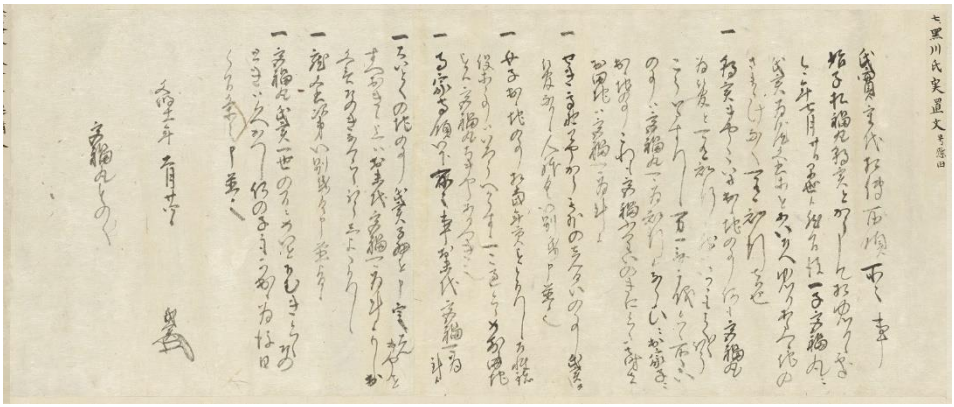
発行：新潟県立歴史博物館
（編集　岩瀬春奈）
2025 年 3 月 15 日

『越後文書宝翰集　黒川氏文書Ⅰ』が刊行されます

『越後文書宝翰集』は、新潟県の所蔵する古文書群です。鎌倉時代以来新潟県域を拠点に活動していた複数の武家に伝来した古文書を明治時代頃に一つに集積したもので、全 727 通が 44 巻の巻物となっています。ほぼすべてが鎌倉時代～戦国時代頃に作成された中世文書で、これだけ多くまとまって伝わっていることから、国指定重要文化財となっています。当館では、越後文書宝翰集について、その内容を紹介していくため、毎年およそ 40～50 通ずつ、写真付きでこれを紹介する書籍を刊行しています。今年も 3 月末に刊行の予定で、13 冊目となります。

この書籍では、越後文書宝翰集が、「色部氏文書」、「中条氏文書」など、伝来させた武家ごとに分類・成巻されていることから、その分類に則って刊行しています。今年は『黒川氏文書Ⅰ』として、奥山荘を中心に活動した黒川氏に伝来していた「黒川氏文書」のうちの 54 通を紹介します。黒川氏文書は 92 通（全 5 巻）の文書群ですので、そのうちの約半数ということになります。是非ご覧いただきたく思います。

なお、黒川氏文書の残りの 38 通については、再来年度に紹介する予定です。



資料　黒川氏実置文（黒川氏文書 1 巻 7 号）

（前嶋　敏）

博物館実習担当のひとこと

当館での博物館実習は例年、9 月下旬から 10 月上旬の間に実施されます。その理由は、春と秋の年に 2 回実施する常設展示の展示替えを博物館実習の一科目として組み込むためです。実習のカリキュラムは計 10 日間。実習生はこの期間中、展示替えでの資料の展示方法のほか、考古、民俗、歴史それぞれの分野ごとの資料の取り扱い方を学ぶとともに、課題調査に取り組みます。課題調査は、グループに分かれて次年度に実施する企画展からテーマを選び、展示構成や情報発信の仕方などを計画し、実習最終日に職員を前にしてプレゼンテーションを行うという科目です。実習生にとって展示企画のプレゼンテーションは緊張するかもしれませんが、短い期間の中で博物館の展示方法などを学びつつ、企画展のプランをかたちにしていくことは良い経験になるはずです。

今年度は、県内外の大学のほか短期大学から１０名の実習生を受け入れました。

実習終了後、ある実習生から当館の博物館実習を通じて学芸員を目指したいという思いを強くしたとのメッセージをいただきました。

写真　博物館実習での展示替え作業風景

実際に学芸員となるのは、簡単ではないかもしれませんが、私も様々なキャリアを経て博物館に勤めることになった身です。志望する実習生がその道を叶えられるよう陰ながら応援したいと思います。

（永瀬史人）

祖母の裁縫雛形

しばらく前に、寄贈依頼の電話がありました。寄贈希望品は、依頼者の祖母の遺品で、裁縫雛形（衣類や生活用品のミニチュア）とのことでした。そこで、資料確認のために依頼者のお宅を訪ねました。

裁縫雛形には洋服も和服もあり、目立たないところに祖母の氏名と学校印がありました。状態も大変よく、近代女子教育の一端をうかがわせる貴重な資料と思われました。

依頼者は箱に入れて保管していただけだそうで、「（自分も依頼品を）はじめてみる」とおっしゃっていましたが、私と一緒に裁縫雛形を見ているうちに、生地や糸運び、何年生の時のものかと関心を寄せてきて、「こうやって見ていると、祖母のことを知りたくなった」と感慨深く話してくださいました。結局裁縫雛形については、しばらく依頼者の手元において、写真を撮ったり、鑑賞したりして、また祖母のことなど資料に関わる情報を調べていただいてから、あらためてご連絡いただくこととなりました。寄贈依頼をきっかけに、依頼者が家族の人生や自身のルーツなどに関心をもつようになることもあります。

資料　裁縫雛形

なお、その後この雛形はあらためて寄贈され、当館の所蔵となっています。（陳　玲）

～編集後記～

「れきはく通信」は、新潟県地域史研究ネットワークニュースと同報のほか、月末更新となる新潟県立歴史博物館のホームページでもご覧いただけます。お楽しみいただけますと幸いです。

ご意見、ご要望は新潟県地域史ネットワークニュース事務局までご連絡ください。

事務局メール　net@nbz.or.jp